

楽しい学校は挨拶から



「おはようございます。」おはようございます。一鉢にお水をあげてください。」

笠松小学校の朝は、子どもたちの元気な声が響き合います。

二月は、児童会の「ほほえみ委員会」が中心になり、全学級が順番に正門に立ち、登校して行く子に挨拶をしていました。正門に立つ子どもたちの中には、当番でも委員会でもない四年生の子の姿も見受けられました。

四年生の子に、「毎日、よく頑張っているね。」と声をかけると、「この前、四年生で毎日出来ることを学級で話し合ったの。ドリルをがんばる子たちもいたけど、私は、挨拶をがんばることにしたの。正門に立つてほほえみ委員の人と一緒に挨拶をしていたら、一緒にやりたいという友達が増えて、今、朝の挨拶が楽しいの。」と話してくれました。

そして、「元気のよい挨拶が返ってくるとうれしいけれど、挨拶が返ってこないときには、学校が楽しくないのかなと心配になるの。私は、楽しい学校にしたいから挨拶を続けているの。」と教えてくれました。

私は、彼女の話から、自身で目当てを決め、行動することの大切さを再確認させられました。そして、笠松小学校の三つの自慢（挨拶・掃除・生き物の世話）は、自分自身で目当てを持って行動しているこのようになり、子どもたちに支えられ、伝統となっています。



このように、学校内では挨拶がすっかりできず、更に地域の中でより気持ちの良い挨拶ができるように指導していきたいと考えています。

笠松小学校

生徒指導主事 岩田伸裕

教育委員会
だより

「進級進学」の四月にこそやる気を伸ばすチャンス

四月です。新学期が始まり、子供たちは一つずつ進級しました。また多くの中学校三年生が卒業し、新しい進路先での生活をスタートさせました。子どもたちは今、新しい気持ちで目を輝かせています。

さて、わたしたち大人は、子どもたちにどのように育って欲しいと思うのでしょうか。

先日、ある講演会で、どんな力を持っている人を企業は求めているかという話がありました。

【ビジネス基礎・基本の力】

- 1 課題を見つけ論理的に考える力
- 2 行動力、実行力
- 3 語学力
- 4 新しい知識や経験を身に付けようとする力

学歴などの肩書きではなく、本人の力を重視するということです。どうしたらこのような力が付くのでしょうか。羽島郡の小中学校では「進路指導」という項

目を設け、中学校はもちろん、小学校でもその元となる力を育てることをめざしています。

では、家庭ではどうでしょうか。前の1〜4のほかに、「他人を思いやり協力してものごとに取り組み力」、「根気よく粘り強く取り組み力」なども、これからの人間に必要な力です。このような力は、家庭での親さんの働きかけが大きく影響します。一度、ご家庭で子供の持つ力、親が伸ばしたい力という点から改めてお子さんを見つめてみてはどうでしょうか。

きっと子供は、既に、良さを一杯もっています。その良さはほとんど認め、本人の自信につなげましょう。また、伸ばしたい力については、新学期という子どもやる気がある時期をとらえて、良くお子さんと話し合われ、お子さん自身が目標として持つようになると良いと思います。